

杉並区内の「子ども食堂」(2017年6月末現在)

詳しいスケジュールはこちら!

名称	会場	開催曜日	時間	費用
高円寺わくわく食堂	高円寺北2丁目町会会館	第2金曜	17:00~19:00	大人300円、高校生以下無料
高円寺子ども食堂	カトリック高円寺教会(高円寺南3)	第1・3土曜	12:00~14:00	大人300円、高校生以下無料
風神亭まんぶくこども食堂	風神亭(西荻南3)	第3日曜	11:30~15:00	大人300円、高校生以下無料
西荻・寺子屋食堂	かがやき亭(西荻北4)	第4土曜	16:00~20:00	大人500円、高校生以下200円
中高生タイムスペシャル	善福寺児童館(善福寺1)	第4水曜	18:30~19:30	大人300円、中高生200円
バードバス子ども食堂	カフェ・バードバス(和田3)	第1木曜	18:30~20:00	高校生以上300円、中学生以下無料
はっぴー子ども食堂	ゆうゆう和田館(和田1)	第3金曜	18:30~20:00	高校生以上300円、中学生以下無料
ゆうゆう見守り隊~ふれあい食堂	ゆうゆう井草館(井草2)	第3水曜	17:00~18:00	高校生以上300円、中学生以下150円
ふくぶくひろば	永福南児童館(永福2)	年2回(次回10月ごろ)	10:00~14:00	大人200円、小中高生100円
子ども食堂in妙法寺	妙法寺(堀ノ内3)	年2回(次回8月2日)	12:00~15:00	無料

プラザからのお知らせ ~地域の情報をお探しの方、すぎなみ協働プラザをご活用ください!~

プラザでは、登録団体や個人の方にメールマガジンを配信しています。内容は以下の通りです。お役立てください。

- ◆毎月第2金曜日発行
- ◆区内のイベントや講座のお知らせ、助成金ほか、地域活動お役立ち情報が満載!
- ◆情報の掲載希望もご相談ください(発行部数:700部以上)
- ◆登録方法

<http://nposupport.jp/ms/merumagaadd.html>
またはQRコードから、簡単に登録できます。



すぎなみ地域づくり勉強会

7月の勉強会を下記のとおり開催します。

- ◆日時:7月24日(月)15:00~16:30
(終了後17:30まで懇親会)
- ◆場所:阿佐谷地域区民センター4F 交流コーナー
- ◆ゲストスピーカー:川崎 裕彰氏(ケア24成田センター長)
- ◆テーマ:「まず『小さな場』から始める ~動き出した『成田なかまづくり計画』」
- ◆参加費:無料(懇親会200円)
- ◆申し込み:sanka@nposupport.jp
または次の電話番号へ
03-3314-7260



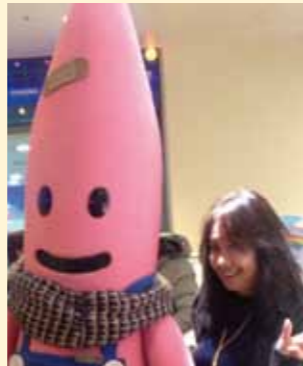
リレーコラム 茶もっこ

「茶もっこ」とは? 新潟県・松代地方の言葉で、通りすがりの人でも軒先に招き、もてなすお茶の意味。

「場」でつながる

私は長いこと小中学校の学校支援をしています。先月、中学校の運動会がありましたが、たくさんの卒業生たちが遊びに来ていて、何人かがすっかり大人びた姿形で声を掛けてくれました。(まだいるんだー!と驚かれたりする)こういうのが堪らなく嬉しいです。母校の懐かしい先生や後輩に会いに行くーただいまと帰る場所はいつあってもいいですね。

プラザでも、「ちょっと近くまで来たから」と立ち寄ってくださる方のいることは本当に嬉しいです。業務が立て込んでいて充分な対応できない時もあるのは申し訳ないのですが、皆さんの中で「帰る場所」とまでは行かなくても、ふと思いついて遊びに行こうと思う「場」のひとつであるといいなと思っています。(清水智津子)



ヒトコト・フタコト

☆載せきれなかった場所を紹介します。
高円寺には、おカネがなくともご飯が食べられる場、「おとな食堂」、キッチン山頭火があります。基本的に屋根がない人が対象ですが、屋根がある人は500円で食べられます。毎月第3土曜、12時~16時、なんとかBARで開催。
永福では、NPO法人すぎなみのたねが主催するコミュニティーカフェのランチ会があります。料理を作るところからの参加もOKです。会場はゆうゆう永福館2階。次回7/28(金)開催。
みなさま、ご協力ありがとうございました。(小野寺)

すぎなみ協働プラザ

<http://www.sugi-chiiki.com/nposupport>

〒166-0004 阿佐谷南1-47-17 阿佐谷地域区民センター4階
TEL:03-3314-7260 FAX:03-3314-7265
E-mail:info@nposupport.jp

- 開館日:月/水~土曜日 午前10時~午後6時
- 休館日:日・火曜日、第3水曜日、年末年始(12/28~1/4)
- アクセス
- ・JR中央線・総武線「阿佐ヶ谷駅」より徒歩2分
- ・東京メトロ丸ノ内線「南阿佐ヶ谷駅」より徒歩7分
- ※自転車でお越しの方は中庭駐輪場をご利用ください。
- ※駐車場はありません。



「すぎなみ協働プラザ」は、杉並区からの事業委託により「NPO法人CBすぎなみプラス」が運営しています。

CAMP



食と居場所でつながる

今月のLine up

- ・特集:「子ども食堂」のさまざまな集い
- ・メールマガジンの配信
- ・すぎなみ地域づくり勉強会

食と居場所でつながる

杉並区内では「きずなサロン」や「まちカフェ」、「子ども食堂」など気楽に集える身近な「居場所」が各地にできています。その中で、「一緒に食事をする」ことを重視した取り組みが増えています。一人暮らしの高齢者や孤立しがちな子どもたちが食事を共にすることで、地域や他人とつながることを目指す地域づくりの一環です。本号では「子ども食堂」とさまざまな形の「食」の集いを特集しました。

子ども食堂一覧表は背表紙にあります！

「子ども食堂」相次ぐ開設

支える地域の協力者

子ども食堂はここ数年に全国各地で続々と開設され、注目を浴びています。子ども食堂の全国的な連絡会である「こども食堂ネットワーク」によると、同ネットワークに加入している食堂の数は240余(6月現在)に上り、その数は現在進行形で増加中です。杉並区内でも各地で立ち上がり、不定期開催を含めると10カ所(4ページの一覧表参照)あります。

その動きを後押ししたのはNHKや民放の特集報道です。「子どもの6人に1人は貧困家庭で、十分な食事がとれていない」というリポートは衝撃的でした。「西荻・寺小屋食堂」を始めた能登山明美さんは、18年間地域で主任児童委員をしていた経験から「さまざまな事情を抱えている子どもたちにとって、学校や家庭以外に一緒に夕飯を食べながら過ごせる居場所が必要」と言います。学校がない夏休みはなおさら。孤食の寂しさを少しでも解消したいと2014年から3年間、夏休み中だけ毎週食堂を開きました。2016年7月からは毎月第2土曜日に開いています。

「一緒に食事をする」が基本

ただ、子ども食堂開催者が異口同音に指摘するのは「『貧困家庭の子の支援』を掲げない」こと。それを前面に出すと逆に参加を躊躇してしまう可能性があるからです。「まずは他の子どもたちと一緒に食事をする」ことを基本にしています。

食堂に欠かせないのが「会場」「ボランティアスタッフ」「食材(資金)」です。特に会場確保は最大の課題。「高円寺子ども食堂」の会場はカトリック高円寺教会の地下ホール。食堂代表の石川千明さんは当初、場所探しに苦労しましたが、自らが信者である教会の広いホール(厨房付き)に着目、教会の協力で会場として使用することができました。毎回60人ほどの親子が参加しています。

2つの食堂が助け合い

食堂運営では調理、配膳、受付などのスタッフが必要になります。その人繰りを二人三脚でこなしているのがカフェ・パードバスとゆうゆう和田館。「和田にふたつの『子ども食堂』をキャッチコピーに、互いに助け合っています。ゆうゆう和田館の小松崎明子さんは「カフェもゆうゆう館も調理をするときはそれぞれ出向いて一緒に作ります」と説明。参加している中高生がスタッフ側に回ることも珍しくありません。カフェの櫻木昌子さんは「2カ所で1回ずつやることで、参加の機会が増えます」と話します。

善意の寄附、食材提供

多くの食堂が食材を「善意の寄附」で賄っています。「高円寺子ども食堂」ではHPを見て共感した人が定期的にお金を寄附したり、スタッフ関係者がコメや野菜を提供したり。「高円寺わくわく食堂」は代表の由井宮太郎さんが商店会の会長だったこともあり、青果店から野菜・果物、精肉店からは肉類などと、幾つかの地元店から無償提供を受けています。

食堂によっては子どもたちの「学習支援」も行っています。食堂に通う子どもたちの中には塾へ行けなかったり、不登校だったりして学習面で課題を抱える子が少なくないためです。食事の前後にスタッフが勉強を教えたり、スクールソーシャルワーカー(SSW)が学習支援している食堂もあります。

例外なく言えることは、どの食堂も地域の協力者が熱心に支えていることです。支援を必要としている子どもで食堂に来る子は一握り。食堂はまだ増えそうです。



厨房は戦場



みんな一緒に食べる



これで300円



「二人三脚」の食堂仲間

晩めし屋

本音を話せる介護者の居場所

毎月第1土曜日の午後6時ごろ、井の頭線「永福町」の駅ビル2階にシニア男女約15人が集まって来ます。行先はNPO法人杉並介護者応援団が開催している「晩めし屋」。両親や配偶者を介護している(あるいは、した)人が一緒に手料理を味わい、お酒を飲みながら歓談し、情報交換する場です。きっかけは介護者応援団が主催している男性介護者の会で、ある男性が漏らした一言。「親の介護を始めて7年間、一度も居酒屋へ行っていない」でした。それを聞いた介護者応援団の府川六幸さんは「介護に追われている男性介護者がくつろぎ、本音を言える場所を作ろう」と思い立ちました。初開催は2011年6月。

最初、参加者はスタッフを除くと3人だけでしたが、次第に増えていきました。介護の悩みを語り合い、聞き合うことが多かったようですが、大勢で食卓を囲む楽しさも加わりました。大きな円卓を囲んで、十数人が互いの顔を見ながら飲み、食い、語り合います。

参加費は1,000円。調理師の女性を作る料理はプロの味で、ワインや日本酒が振る舞われると、食卓はいっそう賑やかになります。

「この時間、この場は楽しく過ごしたい」「介護から一時離れて自分を取り戻したい」。介護者が自分を解放できる場であり、欠かせない「居場所」でもあります。



information

- ◆住所
杉並区永福4-1-3 池田ビル
「地球儀 交流室」
- ◆開催日時
毎月第1土曜日18:00~20:00(要予約)
- ◆問い合わせ
TEL:03-6768-1322

杉並・ワーカーズまちの縁がわ「なかまの家」

気軽に集える食と憩いのスペース

善福寺川緑地からほど近い、静かな住宅街にある「なかまの家」は、退職したヘルパー仲間が2013年に誕生させた地域の居場所です。一軒家を丸ごと借りて、ワンコイン(500円)ランチやコーラス、スケッチなどのプログラムを提供しているほか、ちょっとした困りごとの相談にも乗っています。

1階にキッチンと交流スペース、2階にはコルク敷きの子ども室とレンタルスペースがあります。南向きにとられた大きな窓から注ぐ日差しは暖かく、安心して過ごせる雰囲気を感じます。

ランチには多い時で15名前後訪れます。午前中のプログラムや集会に参加した後に

食事をとる団体客のほか、一人で立ち寄る人もいます。代表の浅沼幸子さんは、一人で来ても孤立しないように、常に配慮する事を心掛けています。「元気な人もそうでない人も、どんな人にも心地よく、ふらっと立ち寄れて仲間が作れる縁がわにしたい」と浅沼さん。

今はキッチンを手伝ってくれるボランティアを探しているそうで、「新しい仲間を増やし、そこからさらに繋がるのができれば」と話しています。



information

- ◆住所
成田西4-8-23
- ◆開催日時
月・水・金曜日 10:00~16:00
(ランチ11:30~14:00)
- ◆問い合わせ
TEL:03-5930-6140

子育てサロン こぶたカフェ

ママ友ができる気軽な集いの場

「こぶたカフェ」は中野区を中心に活動するカウンセラーの高橋ライチさんが15年前に始めたサロンで、ご自身の子育て中に「子育て中でも大人同士で自由に話せる場がほしい」と考えたのをきっかけに誕生しました。東中野などでサロン活動をしていたところ、たまたま参加した「親子カフェ・イルソーレ」(下高井戸1丁目)を運営する辻亜耶さんがサロンに共感して場所を提供。2016年10月に杉並でも始まりました。杉並の子育て支援に長らく携わるハイコラ東京・杉山めぐみさんも、運営を支えています。

「こぶたカフェ」の目玉は参加者が全員で一緒にランチ(800円)を食べる「給食」です。

食卓を囲んで同じメニューを食べながらおしゃべりすることで、初めて会う人同士でも、一人で来た人でもすぐに友達になれます。

食事のほか、編み物などのワークショップや、ヘッドマッサージなどリラクゼーションも用意されています。参加者がブース出展するスペースもあり、特技や趣味の作品を披露できます。それが繋がりのきっかけになるそうです。

会場には広い遊び場やベビーベッド、授乳スペースもあり、お子さん連れにも優しい作り。イルソーレの辻さんは「孤立しがちなお母さんにこういう居場所があることをもっと知ってほしい」と話しています。



information

- ◆会場
下高井戸1-40-8 野崎ビル2F
親子カフェ il sole (イルソーレ)
- ◆開催日時
月1回 10時~14時(次回以降は7/10、8/21)
- ◆入場料
500円(子育て応援券利用可)
- ◆ホームページ
<https://www.facebook.com/kobuta.ilsole>